

研究雑話(113)

障害児教育・動作学誌上実習(31)
藤井力夫

姿勢反射の発達とリズム運動の習熟(11)

連続寝返り《ドングリ》にみる足腰からの立ち直り。

前回は、リズム運動・《両生類ハイハイ》を例に、手足が自由に使えるにあたっての躯幹や腰部・骨盤の役割についてお話をしました。イモリのようにお腹を着けてしまいますと、

膝這いのときのように、保護伸展による傾斜反応を利用できません。躯幹自体における左右・筋緊張のしなやかさ、及び腰部・骨盤での傾斜や捻転、これらが問われます。膝立ち

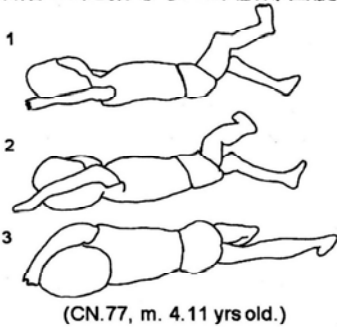
重力に順応して立ち直す動作です。乳児における最初のそれは(6ヶ月)、頸定による肩からの躯幹・立ち直り動作です。リズム運動・《ドングリ》は、頭の上で両手を合わせて、ドングリのように連続して転がる課業です。肩からの立ち直りを利用せざるを得ない子どもは、両手を放してしまいます。図A、段階5で、両手を放さないで寝返ることができるようになります。これは、《アヒル歩き》・段階5、蹲踞位移動の持続と対応しています(図B)。

1歳3ヶ月、1歳8ヶ月、2歳2ヶ月児にみる違い：図Aの段階1から3。0歳期のときとの違いは、足腰からの寝返りです(段階1)。1歳8ヶ月児では、さらに腰部の捻りを利用(段階2)。2歳2ヶ月では、連続は無理ですが、足腰からの寝返り模倣として完成(段階3)。今回は、リズム運動・《ドングリ》に焦点をあて、連続寝返りにみる立ち直り動作の発達についてお話したいと思います。

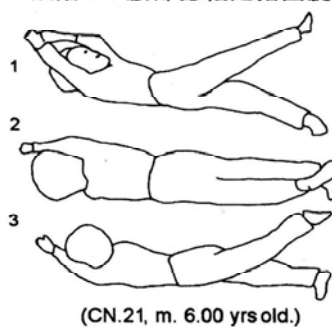
上肢・手掌を合わせた連続寝返り：寝返りは、猫が二階から落とされようと、両足で着地するように、迷路や頸、視覚など、

A. 《ドングリ》の発達段階。(毎秒2コマ)

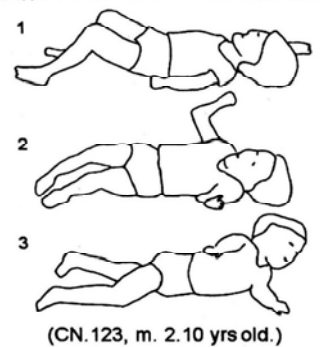
段階6. 足指もち上げ腰部回旋



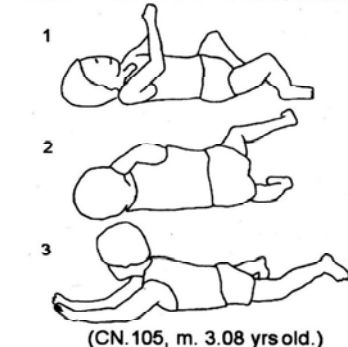
段階7. 腰部捻転足指回旋



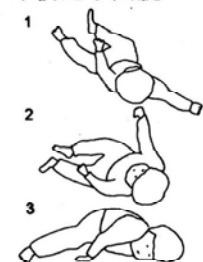
段階4. 膝もち上げ連結回旋



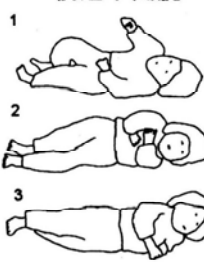
段階5. 膝もち上げ腰部回旋



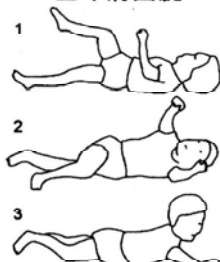
段階1. 膝上げ寝返り回旋



段階2. 腰部寝返り回旋

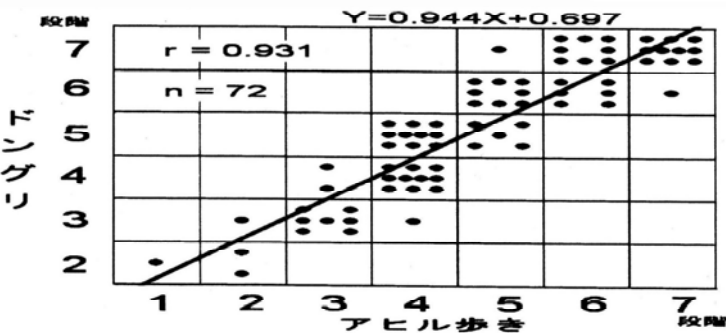


段階3. 膝もち上げ肩回旋



(CN. 176, m. 1.03 yrs old.) (CN. 171, f. 1.08 yrs old.) (CN. 142, m. 2.02 yrs old.)

B. 《アヒル歩き》との発達連関。(藤井:1981)



ドングリ

アヒル歩き